

農園便り 5

月号 (111号)

文責 筒口 典康

(2022/05/01)

1944年(昭和19年)の7月20日。隣の優子ちゃんが、『お母さん、優子ねー全優だよ!』。『よかったね』と優子のお母さんが…。愛らしい一人子であった。1945年6月、学童疎開先の富士吉田の寮でその優子ちゃんが栄養失調で亡くなる。学校葬。盛大なお葬式であった。お腹が空いて、青く美味しそうな梅の実を食べて、青酸カリ中毒での突然の死であった。

しばらくして、私は寮(旅館)の丸窓のある床の間付きの大きな部屋に横たわっていた。誰も来ない。先生方から傍に行かないように言われていたのであろう。体力を失い、首の位置も変えられない。枕から首が落ちる。両の手・足が転がる。蠅が吹き出る汗を吸いに来る。誰も来ない。「蠅が手を擦る足を擦る」、蠅すら追い払えないのである。汗を舐めに来る。ハエと遊ぶのである。「優子ちゃんの次は、僕が死ぬのかー ……」と思う。

母が呼ばれて、特大の風呂屋の脱衣籠と大風呂敷を持って現われる。超満員の中央線で飯田橋の駅に。当時、飯田橋駅には操車場であったので臨時の終着駅であった。脱衣籠は網棚に置かれた。網棚からは外は全く見えなかった。



2022/04/24 ロシアの進攻による難民の発生 ルハンシク州、ドネツク州、クリミア半島に続いて割譲を狙う

今、ウクライナの子らも、大人も餓死に追い込まれている。そっと涙を拭くのである。侵略を始めたプーチンが憎い。始めたら止まらない戦争をやってはいけない。核などで脅す。有りえないことが進行している。「ロシアよ、人類を滅ぼすのか! 地球の全生命体を傷つけるのか!」ロシアが幸せになれることはあるまいに。プーチンよ、過去・現在・未来に責任をとれ!。

世界の人口が爆発的に増大している今。早かれ遅かれ恐ろしい闘争が起こることは間違いない。私たちの英知を集めて取り組まなければならない問題である。2050年には100億人になると言う人口。既に食物の奪い合いが始まっている。ウクライナはチェルノーゼム(黒土)、世界で最も生産力のある土の穀倉地帯である。無論、ロシアは日本に北方領土など返還するつもりはあるまい。日本歴代の総理の「芸者外交」をさぞかし、ほくそえんでいたことであろう。



3/20 私の野菜作りが載りました 4/11 元気に育つやさい達 ニラ、ブロッコリー、春キャベツ、小松菜が
久しぶりりに、「やさい畑」の竹村(編集部)若林(撮影)さんが農園に参りました。

8月号の原稿の取材であろうと思います。(5/21)

大島の中学校の学校農園で野菜作りを始めてから(22歳)、今日まで(82歳)。見よう見まねで作ってまいりました。それにしても自信なんて、どこを探しても
ございません。 プロの農家とは全く違うのであります。



3/26 コンテナ池の北側畝を作る ナス、キュウリ予定地 3/28 南側の畝 サヤエンドウ、葉物野菜トマト

5月21日(木) 10時30分 野菜たちが元気いっぱい。 南端から、ニラ小松菜、夏キャベツ、ステックブロッコリー、ネギ、サヤエンドウ、中央の作業路にもニラが。 作業路の北側にクワイ、クレソン、セリ。 姫コウホネ、松葉藻、姫蓮根。 オタマジャクシ、メダカの水槽を置く。 玉葱、サニーレタス。 ナスとキュウリの予定地。 追肥用の深溝。 里芋とショウガ、ニラ。 全体を厚板で囲んでいる。外側に雑草たちを植える。 有機・無農薬での野菜作りの始まりであります。 「やさい畑」の取材を終わりランチタイム。 強光を浴びて、野菜たちの元気が、いささかないように見える。 枯れる。全滅



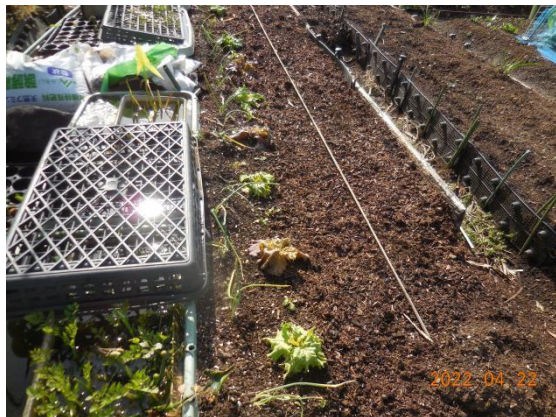
4/22 ネギ、サヤエンドウ枯れる

小松菜、春キャベツ、スティックブロッコリー、大玉トマト枯れる

日照りが強いので、食事後再び農園に参りますと……と……、 33 区の畑の 3/5 が、グッタリ。 どうしたのでありましょか……。

翌朝、畑の 3/5 の野菜たちが、仮死状態になる。 グッタリ。 オタマもメダカも消え失せる。 除草剤を撒かれた症状である。

ブロッコリーは親しくしていただいている専業農家の尾崎さん(隣の畑)に戴いたものだ。 枯れてしまい申し訳ない。 前回の 2 年間で、これまで悪質なことは起こらなかったが。 ウワサでは色々と聞いていた。 それが、起きた。 慌てた。 作り直しだ！。 補欠 3 番で、耕区 33 番が回ってまいり、皆さんと同じスタートに喜んだ。 やり直しだ。



4/22 コンテナ池に入れたメダカ、オタマジャクシが… 4/25 サツマイモの畝トマト「サナ」でマルチする

大玉トマトの畝、20 cmほど土を取り除いて南脇に置く。(重労働) ちかくの「芝勝」で野菜・花用の用土を 5 袋購入して客土する。(散財) 竹ボカシ、粃殻ボカシ、ダルマ堆肥、蟹殻を入れて混ぜる。 粃殻燻炭層を作る。 病気を出さない畝を作る。 やり直しました。

トマト大玉(接ぎ木麗華)2 本、中玉(甘種)1 本、小玉(多収種)1 本、植える。 枯れ方のひどい所は土を入れ替えるより方法がない。



4/25 トマトえお植え替える サツマイモ畝作り ナスとキュウリを植える レタスが枯れている

公立中学嘱託で勤務を終了して、あるキリスト系の私立校に転職(講師)。 上司と意見が合わず(糸魚川中流の植林事業)難儀する。 そのことが原因なのか、進行性の胃癌になり胃を 3/4 切除の手術。 手術は成功して、其の後 14 年間、健康でいる。 三楽病院の谷先生は「神の手」をお持ちになっていた「名医」であった。 当時の嫌な思いが蘇ってくる。 癌の再発だけは御免である。



4/25 ジャボチカバの実が、幹を覆う

もう一つの鉢に一齐に花が咲く

小さな温室で冬を越したジャボチカバに黒い実が幹に付着する。 幹が黒い実で覆われるのである。 熱帯のジャングルにあるイチジクの仲間のようにこびりつく。 年間5～6回、実を付ける。 今のところの勢いだと7～8回は付きそうだ。 この果物はお店には並ばない。 完熟するとたちまち醗酵してくるので並ばない。 ブドウ「藤稔」の様な実の大きさである。 お味はレイシの様。 楊貴妃が食したレイシ。

食後、種子の周囲のヌメリを取ります。 鉢の中に押し込む。 実によく発芽するのであります。 育成7年。 初めての花が咲く。 三浦半島の南端にあるフルーツ・パフェの店でこの実を食べたのが初体験。 幹が、人差し指の太さぐらいにならないと実が付かない。 約10年。 10年なんて、すぐ経ちますヨ。 真冬に12℃程度の温度は必要である。 後は「水」管理。 14～15℃もあれば、冬でも花が咲く。 冬季に「葉」を落とさないことが、年間7～8回実を付けるコツである。 ミラクルフルーツやモンキーバナナよりずーっと作り易い。 お得感がえられるフルーツである。 大変お上品な甘味である。



4/05 区画33区のお隣りの農家の畑

手前は千川上水 土手のソメイヨシノ

オタマジヤクシ・メダカの死滅。 姫カワホネも、セリも。 野菜たちが全滅する。 除草剤の残留も恐ろしい。 3ヵ月の時間の空費、腹立たしい思で一杯である。 T. O